※令和４年度以降入学生用

学校番号	110

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「詳説日本史」（山川出版社）						
副教材等	「新詳日本史」（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本史演習は日本史探究の科目で学び、考えた知識や思考力を生かして多くの文献資料や、統計資料などをもとに、様々な出来事が起こった背景や関連性を常に考え、さらなる歴史的な視点を養うことを目的にしています。授業では、以下のことを意識しながら取り組んでください。
●「なぜ」「どうして」と問いかけ、自分なりの意見をまとめる。
●様々な出来事の関連性や背景などを資料や根拠をもとに自分なりに考えられるようにする。
●考えた意見を他の人と議論し、様々な考えに触れる。

2　学習の到達目標

① 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。
② 事象が生じた背景や理由を資料やデータなど用いて考察し自分の意見としてまとめることができるようになるとともに、他者との議論を通じて考えを深める態度を養う。また、図表を作成するなどして自分自身の考えをまとめたり、他者に考えが伝わるよう工夫できるようになる。
③ 課題を追究したり解決したりする活動を通して、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論しようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	第16章占領下の日本	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革に ついて、その経過と内容を理解する。戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。	a: 第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革 について理解している。 b: 戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期に おける諸改革が生み出した成果と課題について、 主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出プリント	提出プリント オンライン課題
	第17章高度成長の時代	・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55 年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ・冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。	a: 保守合同による自由民主党の成立から、経済成長 を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。 b: 日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合 への加盟、新安保条約・ＬＴ貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 55 年体制の歴史的意義や、1960 年代における保 守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。	定期考査	定期考査 提出プリント	提出プリント オンライン課題

※令和４年度以降入学生用

	第18章激動する世界と日本	・ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。 ・高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、２度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する ・冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文 化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。	a: ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。 b: 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c: 第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。	定期考査	定期考査 提出プリント	提出プリント オンライン課題

※令和４年度以降入学生用

後期	各時代の文化史	・古代～近現代の文化史の背景や特色を様々な歴史的史料・建築物などから推測し、人々にどのような影響を与えたのか多面的・多角的に考察する。	a:古代～近現代の文化史の背景や特色を歴史的な史料や建築物などの具体例から読み取り、理解している。 b: 古代～近現代の文化史の背景や特色を歴史的な史料や建築物などの具体例から読み取り、それぞれの文化の成り立ちや人々への影響などについて多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c:日本の文化史について自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。	定期テスト	定期考査 提出プリント	提出プリント オンライン課題
	問題演習	・問題演習を行い、日本史探究や日本史演習の授業で学んできた日本の歴史の流れや出来事の背景の理解の強化、資料の読み取りの正確性を高める。	a:問題演習を行い、自分自身の知識の補完や資料読み取りの正確性を高められている。 b:問題演習を行い、自分自身で理解が追い付いていないところを探し、課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 c:問題演習を行い、自分自身で理解が追い付いていないところを探し、克服しようとしている。	定期考査	定期考査 提出プリント	提出プリント オンライン課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度